

A detailed, sepia-toned historical map of East Asia, showing the Korean peninsula, Manchuria, and parts of Siberia. The map features numerous place names in Japanese characters, rivers, and a grid of latitude and longitude lines. The map is oriented with North at the top.

朝鮮・満蒙 地誌叢書

全3巻

日本近代史研究に欠かせぬ、

朝鮮・満州・シベリアに関する貴重文献集。

クレス出版

『朝鮮満蒙地誌叢書』の刊行に寄せて

駿河台大学情報学部教授

広瀬順皓

今回『朝鮮満蒙地誌叢書』として刊行する朝鮮・満州・シベリア地誌は、明治から大正にかけて朝鮮・満州問題を精力的に論じた雑誌『朝鮮及満州』を刊行し続けた、朝鮮及満州社が大正七年に刊行した『朝鮮及満蒙叢書』全六輯を底本としている。

もちろん日本近代史研究において、朝鮮・満州・シベリアが占める地位については今更いまでもないだろう。近代日本の基本政策の大きな柱の一つが「大陸政策」であり、それは早くも、一八九〇（明治二三）年に開かれた第一回帝国議会の劈頭、首相山県有朋によって宣言された。彼は、主権線と利益線という言葉で大陸政策を表現、日本の独立を維持するためには利益線を確保すべきであると主張し、朝鮮がその利益線にあたるとした。その直接の発現が、朝鮮をめぐる戦われた日清戦争であった。以後、日露戦争、日韓併合をへて一五年戦争に至るまで、利益線は生命線と名前を変えつつも、日本は東北アジアに強い関心を持ち続け、侵略を繰り返してきた。

かくしてこの問題に関する研究は、政治史、外交史、経済史など多様な立場から多くの研究成果が発表され蓄積されてきた。しかし最近では、近代日本を一国史として叙述するだけでなく、東アジアというより大きな視点から理解しようとする、新しいアプローチも有力になってきている。これは従来の朝鮮史・中国史研究、あるいは個別外交史研究を乗り越えようとするものである。新しいアプローチは、当然新しい史料を必要とする。近代日本の研究者にとって、たとえば大陸政策の対象となった地域の同時代の姿を認識することは、きわめて重要であることはいまでもない。本書は第一次世界大戦末期に刊行された朝鮮・満州・シベリアの地誌であるが、それはまた、新しい世界秩序の形成期における日本の大陸認識を示すものでもある。

今回『朝鮮満蒙地誌叢書』を刊行するのは、まさにこうした問題関心によるものであり、本書が日本近代史研究者のみならず、広く東アジア近代史研究者に利用されることを願っている。

『朝鮮満蒙地誌叢書』構成

- ① 朝鮮地誌 全一卷
- ② 満州地誌 全一卷
- ③ 西北利亞一班 全一卷

『朝鮮地誌』内容見本

を始めとし、他の各道も逐次準備の整頓を俟つて之を施行し、今日では全道に之を實施されたり。目下共同墓地二萬四千五百箇所にして官有山野の無償交付なり而も朝鮮人の慣習として火葬は容易に行はれざるもの如し。

第十章 行政

舊韓國の中央行政制度は、明治廿七八年改革の際日本の制に倣うて内閣、中樞院及び外部、内部、度支部、軍部、法部、學部、農工商部の七部を設けたりと雖も、要するに形式上の變更に過ぎずして宮中の勢力常に府中を左右せると、權臣勢家の争鬭寧日なきとの爲め、内閣員の交代頻繁にして殆んど朝夕を測らざるの状あり。明治三十八年十一月日韓協約の結果帝國政府に於て舊韓國の外交事務を監督指揮することとなり、統監府の開設と同時に外部を廢止したるも其他は猶舊に依りたるが明治四十年六月に至り伊藤統監は舊韓國政府に勸告し内閣官制を改正し、總理大臣の權限を明かにし、内閣會議を経べき事項を改定し、以て國政の基礎を確實ならしめ、尋で同年七月韓國施政の改善に關する協約に依り、日本人を各部次官以下直

第二編 人文地理

二三五

『満州地誌』内容見本

奉天省（瀋陽縣）

瀋陽縣（奉天）

二八

沿革 奉天は一に瀋陽と稱す、瀋水の北に在るを以てなり、此邊一帯の平野は渤海時代の瀋州にして、城東の福陵は渤海大氏祚榮の居城を築きし東牟山の舊蹟なり、或は云ふ唐の太宗東征の後安東都護府を置きしは此地なりと、又唐朝以前は高句麗の領土にして、高句麗以前は挹婁國たりしが如し、瀋陽の名は元朝に始まり、明は此地に瀋陽中衛を置けり、清の大祖帝業を創むるに及び、都を遼陽より此地に遷し因て盛京と稱す、當時清國の版圖は今の南滿洲の一部分に止まり、西に明を控へ北は蒙古に隣し東南は朝鮮と接壤するが故に帝都として瀋陽は恰好の位置なりしなり、順治の初年都が北京に遷すに及び將軍を此地に置きて留守せしむ、因て留京又陪都の稱あり、其後滿洲を分ちて奉天、吉林、黑龍江の三省となすに及び瀋陽は奉天一省の行政中心となり、兼て東三省軍政の樞軸となる、其衙門は日露戦役後制度一變し、更に再三變じて現今の中華民國に及び、督軍及省長と改稱せられて今に及ぶ。

位置地勢 奉天は北緯四十一度五十八分 東經百二十三度三十八分に位し、大連を距る北二百四十六哩 北京を距る東五百二十三哩、安東を距る西北百七十八哩の地點にありて、南滿洲の畧は中心に當り、廣漠たる平野四圍に開け、渾河其の西南に流れて遙に渤海に注ぐ、渾河流域一帯の地は、地味概して肥沃なれば農業夙に開け、收穫割合に多し、氣候 大陸的にして寒暑の差甚しく奉天測候所の調査に據れば結氷期は概ね十月末にして、翌年三月頃解氷し、極寒（一月）攝氏零下二十三度前後より甚しき時は三十度に降り、酷暑（七月）攝氏三十五度華氏九十度に昇る、而し

朝鮮満蒙地誌叢書 全3巻 朝鮮及満州社編

2000年1月刊

A5判/上製函入クロス装 ISBN4-87733-080-1(セット) 揃定価本体50,000円

① 朝鮮地誌

ISBN4-87733-081-X
定価本体26,000円

② 満州地誌

ISBN4-87733-082-8
定価本体16,000円

③ 西北利亞一斑

ISBN4-87733-083-6
定価本体8,000円

クレス出版好評既刊書

朝鮮総督府施政年報

全30巻 朝鮮総督府編 広瀬順昭解説

明治39年韓国統監府が設置されて以来、明治43年の日韓併合をへて昭和16年版まで刊行された日本の朝鮮統治の年次報告書。行政、司法、治安、財政、金融、交通、産業、教育等各分野を網羅し、日本の朝鮮支配研究の基礎史料の一つである。

揃定価380,000円 ISBN4-906330-37-1,38-X,39-8,40-1

日本委任統治地域行政年報

全7巻 外務省編 等松春夫解説

1920年から38年まで日本政府が毎年国際連盟に提出した日本統治下の南洋群島の行政報告。行政のみならず法制、産業、交通、労働、教育、医療、軍事等のデータを収録し、戦間期の植民地支配の国際比較研究にも役立つ、南洋群島統治研究の基礎史料。

揃定価100,000円 ISBN4-87733-061-5

増補朝鮮総督府三十年史

全3巻 朝鮮総督府編

朝鮮総督府の施政を歴代総督毎に分けて詳細に記述し、日本の朝鮮支配四十年を通覧する第一級史料。「施政方針」「財政」「産業」と続く各項目は、当該時期の朝鮮統治を簡潔に物語り、日本の朝鮮植民地支配研究の辞書代わりにも利用できるレファレンス・ブック。

揃定価36,000円 ISBN4-87733-062-X

樺太廳報

全7巻 樺太廳文書課編 荒澤勝太郎解説

樺太廳の施政並びに法令に関する意図や其の内容を詳かにし、又汎く本島の産業・文化に関する研究意見を紹介することを趣旨とした官庁誌。第1号(昭和12年5月)～第20号(昭和13年12月)の全号全頁、「樺太時報」の目次・樺太日誌・資料月報を全号復刻。

揃定価97,000円 ISBN4-906330-10-X

露西亞月報

全22巻 外務省調査部第三課編 吉村道男解説

満州事変後のソ連邦の全貌を多角的にとらえようと、ソ連邦に関する調査、重要時事問題および法令集覧を加え、本省と在外公館の執務並びに日滿における調査機関の調査上の参考に資するとともに、ソ連事情啓発のため昭和9年1月より同19年3月刊行されたもの。

揃定価500,000円 ISBN4-87733-005-4,006-2,007-0,008-9

南洋叢書

全5巻 満鉄東亜経済調査局編 原田勝正解説

第一次大戦後、とくに1930年代にはいり日本の資源獲得のために目標となった地域(蘭領東印度、佛領印度支那、英領マレー、シヤム、比律賓)の広範囲に及ぶ高度な資料集。経済・商業・貿易・交通・国際関係等の研究にも利用できる叢書。

揃定価70,000円 ISBN4-906330-36-3

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋

☎03(3808)1821 FAX03(3808)1822 <http://www.kress-jp.com/>



株式会社クレス出版